

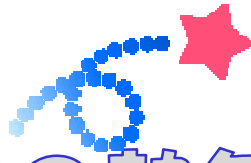
当日版!



いけまぜかわらばん 第1号

2008年8月2日 いけまぜ夏フェス in 日高現地実行委員会 発行

雨雲を吹き飛ばす ボランティアの熱気



道南地方を中心に豪雨の情報が流れる中、今年も日高町でいけまぜ夏フェスタが開催されます。

日高町は朝からどんよりした天気でしたが、日高小学校付近から立ち上るボランティアの熱気で雨雲もどこかに行ってしまったようです。

朝早くから準備を進めてきたボランティアの人たちも、

「ボランティア歴28年、少しでもお手伝いをして参加したい」（日高町・阿部トシ子さん）、「いつも仕事に追われているので、気分を変えて楽しみながらお手伝いをしたい」（厚真町・いけだまなみさん）

など意欲満々で準備を進めていました。



全道から続々 参加者が集合

午前11時頃から会場となった日高小学校に全道から参加者が集まりはじまりました。

伊達市から参加のかめだ・まおくんは「みんなと楽しんでいきたい」、札幌市のつるや・ゆうたくんは「去年一緒に遊んでくれたボランティアさんと遊びたい。花火もみたい」、札幌市のいとう・ひろきくん、だいきくん兄弟は

「乗馬できるのを楽しみにしています」などと日高町でのいけまぜ夏フェス参加の抱負を語ってくれました。

参加者は玄関前でぬいぐるみと高橋先生と一緒にカメラに収まり精一杯の笑顔を見せていました。



ありがとうで始まった 高橋実行委員長のあいさつ

ボランティアさんの昼食も終わり、参加者もほとんど集まった午後1時、体育館で今年のオープニングセレモニーが始まりました。

最初にあいさつに立った高橋義男いけまぜ実行委員長は「日高の地にありがとう。今年で10回目となります。今年のテーマはありがとう。お父さん、お母さんにありがとう、そしてふるさとの皆さんにありがとう。感謝の気持ちを持って地域の中でがんばっていこう」と宣言しました。

そして参加者全員で「いけまぜの歌」



を高らかに大合唱しました。

また、開催地の三輪日高町長が「町内外の参加者・ボランティア900名がこのいけまぜに参加して下さいます。日高町は海にも山にも接して自然に恵まれた町。是非、自然を満喫していただきたい」と歓迎のあいさつをしました。

オープニングセレモニーは最後に日高山岳太鼓保存会の日高小学校の児童20名が「沙流川太鼓」など、少しくも行きが怪しくなった雨雲を吹き飛ばせとばかりに3曲を演奏してくれました。



当日版!



いけまぜかわらばん 第2号

2008年8月2日 いけまぜ夏フェス in 日高現地実行委員会 発行

いよいよポイントラリー開始!



のがとても楽しいです」と語ってくれました。

また、ヤマベすくいのコーナーでは、すばしっこく逃げ回るヤマベに手も足も出ない子もいましたが、網すくいでヤマベをゲットする子もいるなど歓声が沸きっぱなしでした。

たむら・あけみさんは「高橋先生に声をかけていただきました。初めての参加です」、お父さんのたむら・つよしさんは「ボランティアの力はすごい。感心しました。」

オープニングセレモニーが終わり、少しぽつりぽつりと雨が落ち始めた頃からポイントラリーが始まりました。ポイントラリーカードを持った参加者たちが会場のあちらこちらに別れてそれぞれお目当てのコーナーへと一目散に散っていきました。

会場正面玄関ではボウリングが行われ、ストライクが出るたびに大きな歓声が沸いていました。

ストーンペインティングに参加していたちば・りんさん(千歳市3回目)のお母さんは「子どもと一緒に楽しんでいます。もちろん私もです」、ボランティアのみかみ・みちさん(苫小牧市2回目)は「子どもとこうして遊んでいる



ここでは安心して子どもを遊ばせることができる」と語ってくれました。

ポニーコーナーでは、いまほり・そうせいくん(余市町・初めて)のお母さんは「初めての参加です。子どもも楽しんでいます。興奮もしています。これからも参加していきたいです。子どもが走り回らなくなったらボランティアで参加もしてみたい」と抱負を語ってくれました。

乗馬コーナーで順番待ちをしていたなや・しんたろうくん(札幌市・2回目)のお父さんは「体育館で体を動かすのが一番だったようです。ポニーの所では靴をにんじんと間違われました。」





お母さんたちも 美しくなりました



会場内に設けられたお母さんたちのためのエステコーナーは大盛況。予め予約は受け付けていたそうですが、人気は抜群。

はぎわら・えみこさん（札幌市・初めて）は「すごいリラックスしています。さっきまで頭痛がしていましたがどっかに飛んでいきました。いけまぜを楽しんでいきたいです。」
おおの・はるみさん（音更町・初めて）「いけまぜは始まったばかり、これからもしっかり楽しめます」と語ってくれました。

いけまぜでも最大の関心事は夕食のメニュー。ことしは日高町のボランティアの皆さんが心を込めてカレーを用意してくれました。

老人福祉センターの調理場では中嶋喜嬉子さん（日高町）が「上手くできるかどうか心配で昨日は眠れませんでした。朝9時から8人でカレーを作りました。みんなで味見をしてみてこれは満点だと思います。是非お楽しみに。」、また佐治洋子さん・馬場美那子さんは口をそろえて「100点では足りません。200点満点です。子どもたちから大人までおいしく食べていただけるよう心を込めて作りました。」と胸を張って語ってくれました。

今夜の夕食は おいしいカレー



当日版!



いけませかわらばん 第3号

2008年8月2日 いけませ夏フェス in 日高現地実行委員会 発行

今年のいけませ夏フェスの夕食はカレーです。地元日高町のボランティアの女性たちが腕によりをかけて作ってくれました。付け合わせには日高町特産清流のヤマベの唐揚げが付きおいしさと栄養が満点。大盛りでおかわりする子が続出し、肝心のご飯が足りなくなり慌てて追加でお米を炊かなくてはならなくなりました。



おいしいカレーに
ほっぺが落ちそう



ささき・しょうこさん(日高管内・初めて)のお母さんは「いけませは初めてです。とても楽しみにしていました。カレーはおいしく大満足です。」

せき・しおりさん(札幌市・7回目)は「楽しいです。雨でも最高です。カレーも美味しそう早速いただきます」

たかはし・せいやくん(小樽市・初めて)「いけませを十分に楽しんでいます。これからもずっと来たいと思います。お母さんのカレーよりずっと美味しい」と語ってくれましたがこれにはお母さんは苦笑い。

この他、たかさき・としゆきくん(苫小牧市・3回目)は「バッチグーです。家で食べるよりこっちの方がずっと美味しい」

など美味しく心のこもったカレーを多くの参加者が感謝しながらモリモリと食べていました。



食後のアトラクションは ブラスバンドと生ギター



楽しい夕食が終わり、ちょっとみんなが落ち着いた午後6時30分から体育館ではアトラクションが始まりました。

トップバッターは門別吹奏楽団のブラスバンド演奏。オープニングは「羞恥心（しゅうちしん）」圧倒的なブラスバンドの音圧で参加者は演奏に引き込まれていきました。そしてテンポの良い曲には参加者全員が手拍子を取り会場はクライマックスに。

演奏が一通り終了すると場内からアンコールの声がかかり続け、「踊るポンポコリン」に合わせてみんなで体を動かしながら演奏を楽しみました。

吹奏楽団の古川団長さんは「今回はアニメを中心に6曲用意してきました。きっと子どもさんたちにも喜んでもらえたと思います」と語ってくれました。

ブラスバンドが終わるとステージ前にはKAZ（かず）さんが登場。KAZさんは「今晩は、去年も来ましたが今年もまたやってきました、覚えている人は」との質問に多くの手が上がっていました。KAZさんは「なくしちゃいけないもの」から曲を始め巧みなギター捌きでオリジナル曲をたくさん披露してくれました。



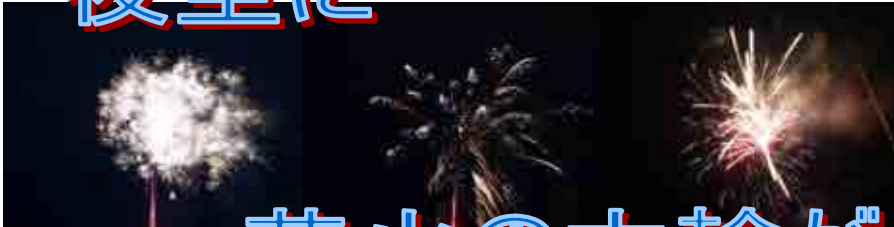
当日版!



いけまぜかわらばん 第4号

2008年8月3日 いけまぜ夏フェス in 日高現地実行委員会 発行

夜空に



花火の大輪が

それまで音を立てて降っていた雨が少し小降りになってきたのは、アトラクションが始まった頃。それもアトラクションが終わる頃にはすっかり上がってしまいました。



実行委員会が一番心配していた花火も無事打ち上げられることになり、みんなほっとしたようです。

まだ、少し足元がぬかるむ状態でしたが、アトラクションが終



わると同時に体育館から一斉に参加者がグラウンド前に集まりました。みんながワクワクして待っていると、いっせいに花火が打ち上がり、参加者からは大きな歓声が沸き上がりました。

次から次へと打ち上がる花火を見上げて、参加者からは思わず「スゲー」、「カッコいい」など声が出ていました。



さあ一寝る準備はできたかな

花火が終わると今日のイベントは全て終了。残念ながらお泊まりができずにお家に帰る参加者10家族には来年、また来てねと修了証が渡されました。日高小に宿泊する参加者は思い思いに歯を磨いたり、寝具をそろえるなど一日の疲れを休めるためにお休みの準備をしました。午後8時半を少し回った頃には、すやすやと寝息をかいて眠りにつく小さな参加者もいました。さて、みんなどんな夢を見たのかな。



参加者が目覚めた頃、残念ながら日高の町は雨の中。みんなの晴れてほしいとの願いが通じなかったのかな。でも、そんな天気を吹き飛ばすようにあちらこちらからオハヨーと大きなあいさつが飛び交っていました。

体育館に集まった参加者はリーダーに合わせ、ラジオ体操を行いました。

たばた・ひろとくん（札幌市・初めて）のお母さんは「初めて参加しましたが思ったより子どもは独立していました。ただ大きな音が嫌いなようで花火の間は学校中を逃げ回っていました。でもまた来ます」

ささき・しょうこさん（千歳市・初めて）のお母さんは「とっても楽しかった。みんなと交流することができとても良かった。また参加したい。」と語ってくれました。



朝はラジオ体操から

朝ご飯は豪華メニューだ



朝ご飯は、パンが2種類、フランクフルトとバナナ、それにお好みに飲み物がつく豪華メニュー。朝ご飯を準備してくれた地元ボランティアの小西洋子さんは「朝5時から準備しました。全部で11名が協力して調理しました。美味しくいただけていただけると嬉しいです。」と語ってくれました。会場では早速、パンのビニール袋を破ってかじりついたり、フランクフルトをほおぼるなど参加者の美味しい朝ご飯をいただく嬉しい顔があちらこちらで見ることができました。



当日版!



いけませかわらばん 第5号

2008年8月3日 いけませ夏フェス in 日高現地実行委員会 発行

ミニ運動会の始まりました

会場の外では、ボランティアの人たちが雨に濡れたテーブルやイスを片付けている中、食事が終わった参加者の皆さんは一晩を過ごした教室の中の片付けを始めました。楽しかった昨日の出来事などを話しながら身の回りを整えていました。

ひとしきり整理が終わった頃体育館ではミニ運動会が始まりました。まず最初にじゃんけんゲームでチームを作った後、みんなで風船割り、水運びレースに挑戦。水をこぼして半ベソをかく参加者などみんな精一杯がんばりました。運動会は最後に紅白の玉入れを行って終了しました。



いけませをずっと続けていきたい 高岡実行委員長

開催地の高岡実行委員長は「地元関係者による実行委員会を立ち上げ、日高らしい地域の特色を生かした企画をと知恵を絞りました。これを機会に日高町でもより一層、いけませを地域の中に根付かせ、これからもずっといけませを続けていきたい。」といけませの成果と抱負を語ってくれました。

いよいよ今年のフィナーレ

フィナーレは高橋いけまぜ実行委員長の司会で始まりました。高橋先生は体育館に集まった全参加者に対し「(すべての人が) 来年からは支援ボランティアとして参加してほしい」とあいさつしました。柏葉恭延副実行委員長が「楽しかった今年のいけまぜ夏フェスもいよいよ終わりです」と宣言し参加者全員に修了証書が渡されました。参加者一人ひとりからは楽しかった思い出を大切にしたいと心を込めて受け取っているのが見て取れました。

来年の再会を約束して...

参加者一人一人がいろいろな思い出を作って今年のいけまぜが終わりました。フィナーレの会場では楽しかった思い出をより強く心に残すため全員で記念写真を撮影し来年の再会をお互いに誓い合いました。

帰り支度を済ませた参加者はそれぞれバスや自家用車で家路につきました。

次期開催地は浦河町に決定

次期開催地のいけまぜ仕掛け人は、浦河町の永原智博さんです。永原さんは次期開催地の紹介の中で、「私が発起人となって、今日、日高町から帰ったらすぐ関係者と協議を始めたい。ボランティアには婦人部や看護学校の生徒さんにもお願いするつもりです。2年連続で雨でしたが、浦河町では絶対に晴れて見せます。元気に来年皆さんとお会いできることを楽しみにしています。」と参加者の健康と幸せを祈りながら力強く宣言してくれました。そして日高町の平林さんから永原さんにいけまぜの旗が引き渡されました。



来年、浦河町で再開しましょう...!

